

公明 住民の暮らし向上へ論戦

地方議会 定例会から

各地の地方議会定例会で公明党は、住民生活の向上をめざして活発に主張・提言を行っています。

生活支援 ロボット 県民モニターを提案

神奈川県議会で渡辺議員

渡辺均議員は、生活支援ロボットの普及促進策について取り上げた。

県内の「さがみロボット産業特区」では現在、実証実験を通じた生活支援ロボットの実用化や関連産業の集積などが進められている。渡辺議員は特区における取り組みの一端として、「県民が製品化さ

れたロボットのモニターとなつて一定期間使用し、改善点を提案するといったことも考えられる」と指摘。個人や家庭への普及を促す手法として



渡辺議員

「積極的に検討してはどうか」と提案した。

黒岩祐治知事は「モニターとメーカーの双方にメリットが見込まれる、素晴らしいアイデアだ」と述べ、具体的な方策について検討を進める考えを示した。

また、渡辺議員は「重度障害者医療費助成制度」に基づき、「精神障害者保健福祉手帳」1級の交付を受けた人に入院医療費を助成するよう主張。黒岩知事は「検討する」と答えた。